重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	火災、救急などに対応できる体制が充実している	
施策名	火災、救急などに対する体制の充実を図る	No.18

年度	平成27年度
責任部長	消防長
主担当課長	消防本部総務課長
関係課	予防課、通信指令課、消防署

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
応急手当の実施率（%）	↗	—	—	—	—	—	—	—
		66.9	70.2	69.8	71.9			70.0
消火・消防訓練実施率（町内単位）	↗	35.9	30.1	38.3	43.8	46.5	51.8	45.5
		51.8	54.5	59.9	68.2			54.6
火災・救急の対応への満足度（※満足度を5点満点で評価）	↗	3.5	3.5	3.6	3.6	3.7	3.6	3.9
		3.6	3.6	3.6	3.7			4.2

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

近年発生した大震災の被害により、近い将来に発生が危惧される南海トラフ巨大地震に備えて、市民や事業所等の自助、共助意識が高まり、率先して消火・消防訓練に参加する傾向にある。

救急出動件数は増加の傾向にあり、病院前救護体制の充実が求められている。また、応急手当の必要性や高度救命処置の重要性も広く市民に理解されている反面、救急車の不適正な利用も問題になっている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	A 改善傾向	H27の「応急手当の実施率」は微増に転じており、また、「消火・消防訓練実施率」は目標値を超えていることから、市民等の災害に対する自助、共助意識の高まりがうかがえる。さらに、「火災・救急の対応への満足度」も微増に転じていることから、消防が掲げる火災予防普及啓発、消防力充実強化、消防職・団員育成事業等は、めざすべき姿に向け着実に計画を実施しており、改善傾向にあるといえる。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	
次年度の改善計画	

＊＊

総合計画推進市民会議による現状評価（※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の評価書」から転記）

評価	A 改善傾向	指標1と指標2は長期的に改善傾向であり、目標値も達成している。指標3は横ばいであるが目標値が高いと判断する。